



問 環境課

前

号の漫画は読んでいたんだけどでしうか。復習に
なりませんが、行橋市にはゴミの
焼却施設はなく、北九州市に処
分をお願いしています。また、
行橋市内のゴミ集積場所から北
九州市に直接ゴミを運ぶのでは
なく、みやこ町と共同で運営す
るリレーセンターに一旦集め、
圧縮処理をしているのです。
リレーセンターの運営に係る
行橋市の負担は、年間およそ
5.2億円。そのうち、北九州
市への運搬費と焼却の依頼費
は、年間およそ4.6億円とな
っています。この金額は、毎日
学校給食を提供している防災食
育センターの運営に係る費用
(管理費を除く)と同規模です。
しかも、昨今の物価高騰により、
この金額は今後さらに値上がり
する可能性があります。
また、ゴミ袋の販売金額が半額
になる(前号のP4にて8月
31日から掲載しましたが、8
月1日からの誤りです)ことに
より、リレーセンターへの負担
金は実質的に増加するとともに、
さらなるゴミの増加が懸念
されます。

ポイントとは、運搬費と焼却費を

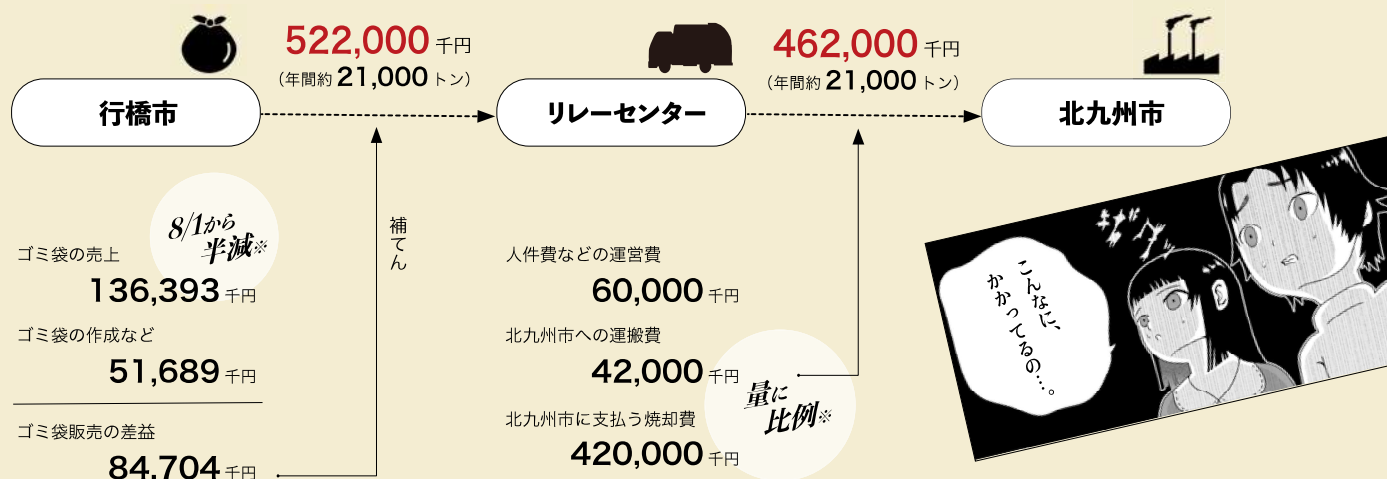
合わせたゴミの処分費が、ゴミの量（重さ）に比例するということです。減量できれば、市の負担のみならず、埋立地の削減、リサイクルの促進、さらにはエネルギーの節約に繋がります。

市では、達成レベルなどを含め、皆さんと広く共有できる減量化キャンペーンを準備中です。

特に注意したいのが、水分を多く含むフードロス。フードロスの削減には、家庭や飲食店での意識改革が必要です。家庭では、

①余分な食材は買わない、②生ゴミの水分はしっかり切る、ここがスタートです。市では生ゴミ処理機の購入の補助を行っていますので、ぜひ検討してください。そして飲食店では、①食べ切れる量を注文する、②宴席では食べる時間を設ける、などが必要です。お皿に残った「遠慮の塊」はありませんか。最後までしっかりと食しましょう。さらに、市の政策推進が不可欠です。今後、減量の進捗を踏まえてさらなる措置を講じます。今こそ、市全体で「協創」することとが求められるのです。

ゴミの旅路と旅行費用



※ 前号で 8/31 と掲載しましたが、
8/1 の誤りです。

※ 燃料費高騰により値上がりの可能性がある。

(注意)

- ・数字は可燃ごみのみ
- ・ごみの収集に関する費用は含まれていない